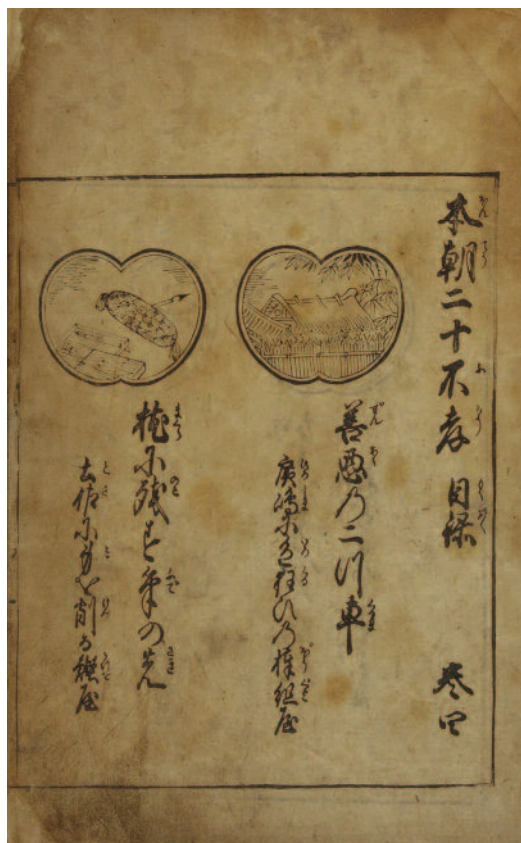




1. 本朝二十不孝 卷四 (井原西鶴作・吉田半兵衛風画)

一 本朝二十不孝 卷四（井原西鶴作・吉田半兵衛風画）



木^こ法^が乃^な袖^{そで}口^{くち}

張^{はり}あふりく^{りく}乃^{なり}藤^{ふじ}屋^や

本^{ほん}小^こ主人^{しゅじん}乃^{なり}面^{おもて}身^み

松^{まつ}あよ^{あよ}鳴^{なり}と虫^{むし}茶^{ちや}屋^や

善惡の二川車

結衣いとも好く恋愛はせむるものなり。何れ
 ゐ乃満あり安雲園の天橋ふかしの花女ねのふり
 と焦し切火縄一寸乃よりふ。つれあふとぞ
 衆の噂に中るえふのかう。あうもは種相し
 廣橋ふと又も。さへは中座乃甚し
 金田屋の源七といひ。げやう親ふかりぬれは浮世乃
 作とらにね年行なるわね。金指我はは
 不乃とふといひ。とふふふふふふ十年銀りふ
 浅きく加ね親仁は。ふふふふの堪難は破さ今
 をいふおか。ふふふ。胡々たる。

一 本朝二十不孝 卷四（井原西鶴作・吉田半兵衛風画）





註畫讚卷第四

赴依智第十七

黎明出龍口十三日午赴送于相剎愛甲郡依智鄉
本間、六郎左衛門尉重連、領兵士等還其時各叉手
曰、日來毀吾等奉憑阿彌陀佛、承故奉惡、昨夜不思
議事等親奉拜貴存、故止年來申念佛言捨數珠不
可申念佛立誓言者多九月十三夜殊雲霧收盡月
色清朗立庭上向月誦自我偈法樂白天言抑名月
天子列法華經會座寶塔品受佛勸屬累品被付屬
如世尊勸當具奉行立誓言佛前誓言無違違者可

ふけとるまむ

いよきむういけとられおそれといふものなり
 たり登山は海一里ていけととりつゝも乃
 事にはいひきりたてはふゆふのこやほこと
 かんいひけかこむ竹の中はちとひり敷竹さん
 一とちよりくるまわーりてよりくくふゆー
 けく乃中ひりきるとそれとんまんとこん乃り
 かゆ人のやうつくーうてぬりおそれまや
 まれ物と夕あとはんゆけの中はおんこる
 こそちりぬきーなりゆかき人なめりとて
 ぬようち入てもぬをちてふぬめ乃女りあつ

三 たけと里物語 上巻

これとちよとたきくめてくまふう乃あふりの
かたもちあはれともなる人ふまゝなやとく
なるまゝまゝの故よりはなをたひもひまやこ
の素よもてかゝこより乃そたひひまかんま
ひあなりふふとさよりあふまふひといひか
人のたふとせあふまふひありけとせなる
あるあふくもかんいそあの人たはたふに
いふんとてひひあはれいともまふまふせ
まふたふれぬあふまふとわう目とくを人
かゝりけつをあらなるひとは「まゝ」なる
あふりけつをあらなるひとは「まゝ」なる



四 朝鮮征伐記 卷第一 (萬治二年刊)





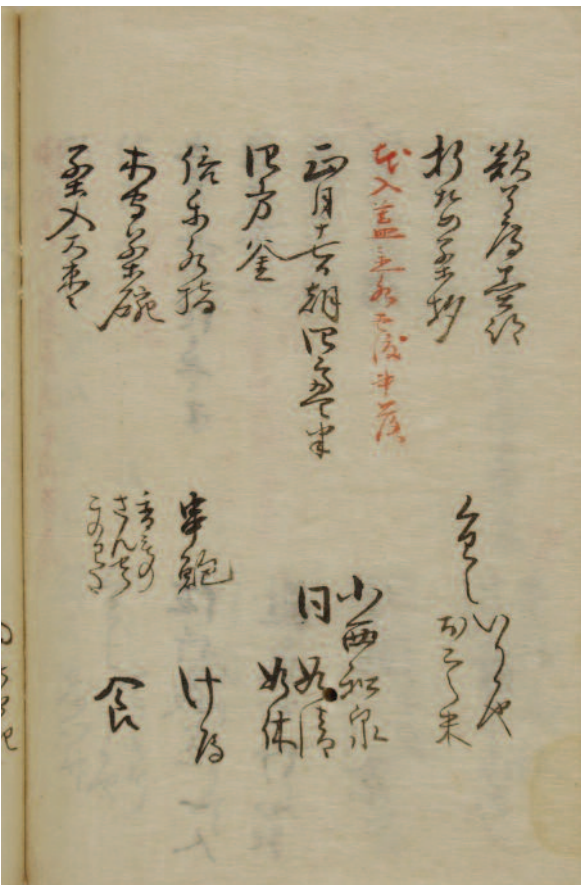
一 傷寒門
背惡寒ノ頸痛シ項脊ニハク腰膝イタミ次者ニ
発熱ノ汗ナク脉浮緊シメ六七動モアルハ傷寒
ノ表熱トス
香葛湯 芍_中 芎_中 升_小 葛_中 根 陳_大 皮
香附子_大 寸_中 牛_少 葱_{白子} 入煎_素 アツ
ク_頻ニ吞セテ物ヲ多クキセテ息ノハツムヤウニ
汗シイダスヘシ
風シイヤカリ頭痛シ項脊ニハク腰膝イタミ発熱ノ

天正十五年 千宗茶湯會席
 八月十七日宣旨補
 雲龍金
 北物馬
 曲物
 南
 茶入小東
 茶居の壺
 黒茶碗 大
 折安茶抄

八幡各々
 草子
 今
 け
 食
 川
 茶
 茶
 茶

32.千家茶湯會席（千利休・天正十五年八月十七日～天正十六年夏六月）

三三 千家茶湯會席（千利休・天正十五年八月十七日〜天正十六年夏六月）



部々々々々
和泉山下
二月廿二日 晚に之を
比方全
信多々々
市々々々
松崎正新寺入道
安江
道慶
城正
乙の了々 食

一
い
ど
あ
は
れ

一天下

柳會序

後、
梳
山
折
友

悔死さこ

五ノヒナ

鮒煮 大皿

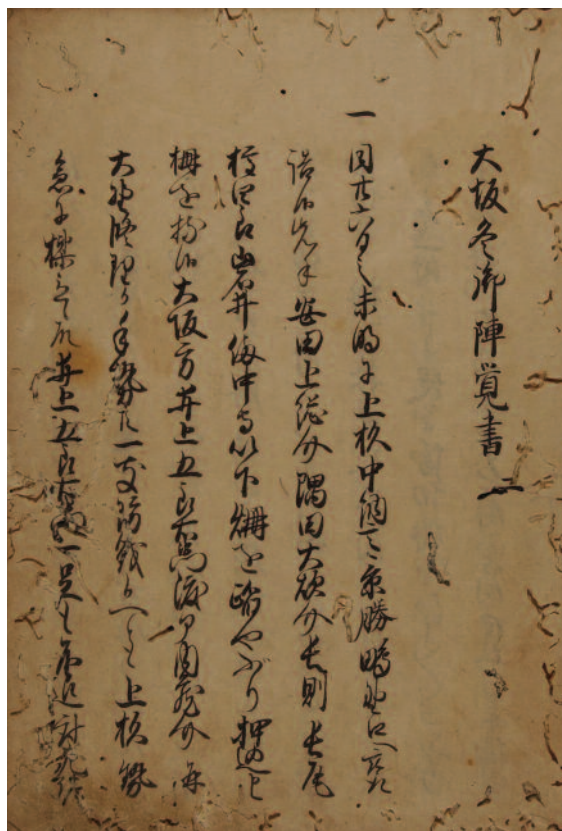
茶をいりて乳石と能
く煮る。乳石は
石と云ふ。

御
御
御

大坂冬陣覺書

一慶長五年不田沼より嶋三成小西長盛より出
て下関より表一戦は折負成六討て成を流
し有り曰海一統は安藤公の由り有り討上板
中個々京揚長利中個々越元信長より入道
就酒依行古多安藤宣長外の大坂長盛
脱路来世の由り有り曰利長より依て中

33.大坂冬御陣覺書



33.大坂冬御陣覚書

東照権現公御所奉下之御源
一切舟法を悉く不願しう無事と
せしは成辨しうふ故に天下法度夜
定むらう実小部宗裕法也信しあ
りしうふとふとふと水味車
一切舟にえ舟を國軍を毎日合を
あしうふと切舟宗と成しと神と

43.東照権現十五箇條（慶長十八年五月）

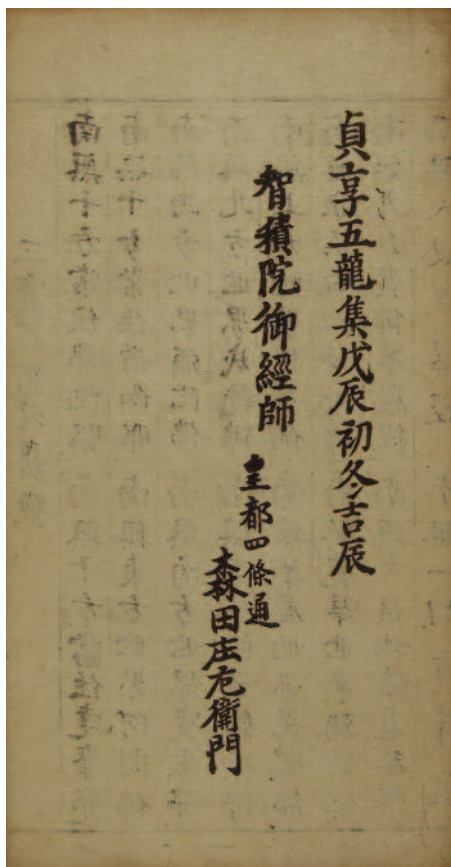
古十二箇條一箇一箇能作一箇天
帝歟是天子五道冥冥日本神
大神之八幡太皇太后春日大明神之外
氏神是也茲余神心可奉崇
神界事

慶長十八年五月 奉祈

43. 東照權現十五箇條（慶長十八年五月）



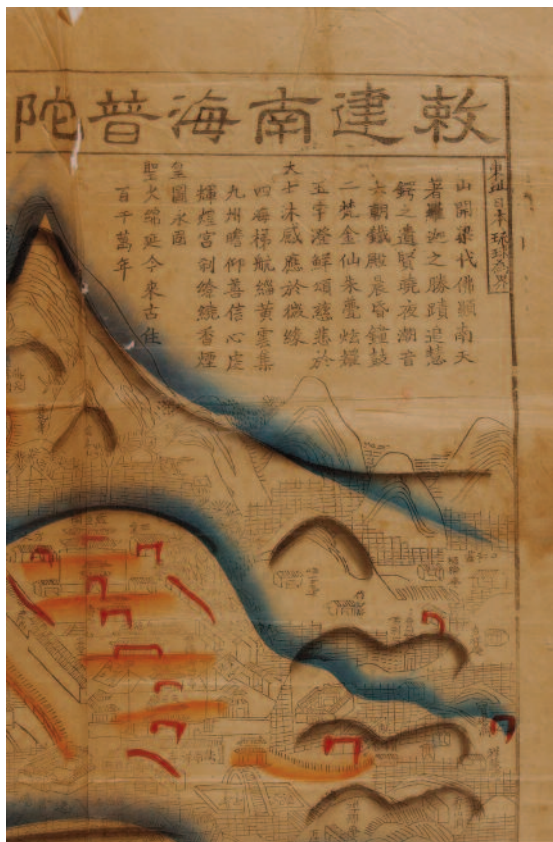
9. 靈會日鑑 (大心義統著・貞享五年刊)



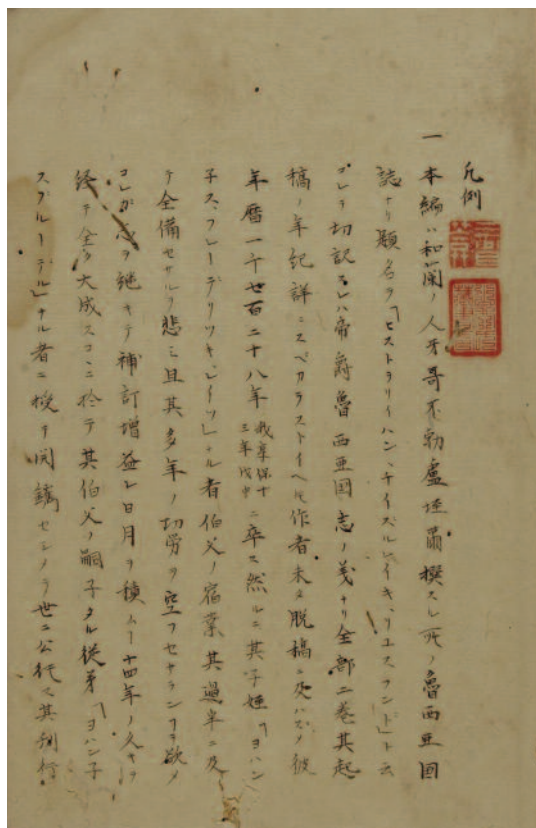
9. 靈會日鑑 (大心義統著・貞享五年刊)

本願寺鸞聖人如信上人ニ對シニシノテオリ
 ノノ御物語ノ条ニ
 一アルトキノオホセニノタニハク、黒谷聖人源淨土
 真泉御興行サカリナリシトキ、カミ一人ヨリ
 ハシメテ、偏執ノヤカラ一天ニミテリコレヨリ
 テ、カノ立リカ泉ノ義ヲ破セラレシカタメニ、禁中
時代不審モシ平
御門院ノ御宇與ニシテ七日ノ御逆オカシ修シユハシメラフナ
 ハル、ツイテニ安居院法印聖覺ヲ唱導トシ
 テ、聖道ト對ノ諸泉ノホカニ別シテ淨土泉ア
 ルヘカラサルヨシコレヲミラシミタラルヘキヨシ勅請アリ

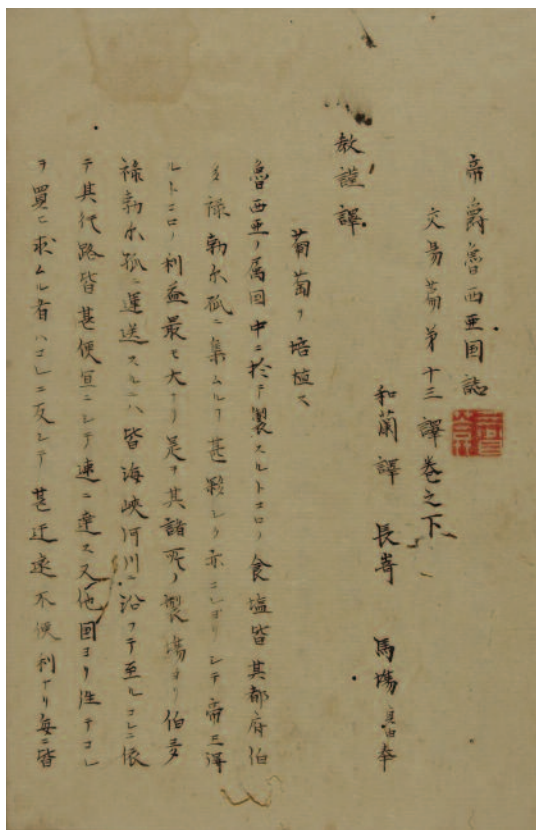




61. 敕建南海普陀山境全圖（咸豐頃刊・部分圖）



87. 帝爵魯西亞國誌 交易篇 (馬場佐十郎譯)



87. 帝爵魯西亞國誌 交易篇 (馬場佐十郎譯)



二六 司馬江漢寫 銀眼鯛・金時鯛圖（寛政八年夏六月）



二八 東都不忍辨財天已待之圖（喜多川歌麿画）







22. 畫本唐詩選外袋 (葛飾北齋他画)



22. 畫本唐詩選外袋（葛飾北齋他画）



79. 新俳句 (岩本外編・傳田精爾舊藏本)



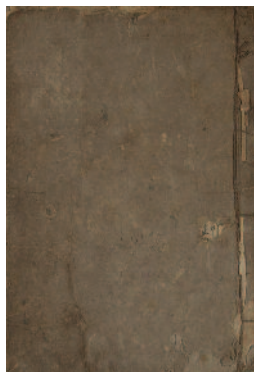
103. ふゑりす和英女學校卒業證書 (1908年)

一 本朝二十不孝 卷四

― 井原西鶴作 吉田半兵衛風画

題簽欠 貞享三年刊 大ニ冊 二七〇、〇〇〇

裏・第四丁表)・(挿繪／第一七丁表)・(第一八丁表／終丁) 欠丁分
ハ早稲田大學ガ所藏スル刊本寫シノ複寫ニテ補充スル。 一〇五頁参照





二 二十四孝繪鈔

箴

松會板

無刊記

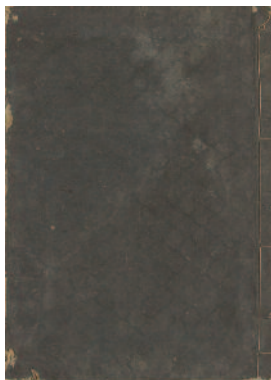
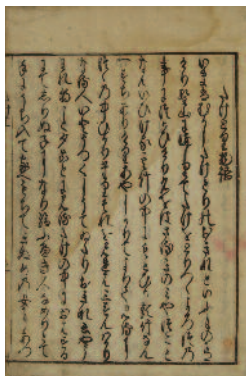
元禄頃刊

大 二冊

三、四〇〇



三 たちと里物語 上巻 題簽欠 少染ミ汚レ 元禄頃刊 大二冊 五四、〇〇〇
 一版心「たけ上」 尾題「たけとり物語上終」 二二丁 七九頁参照

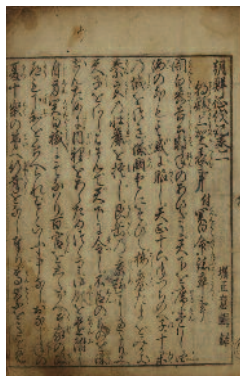


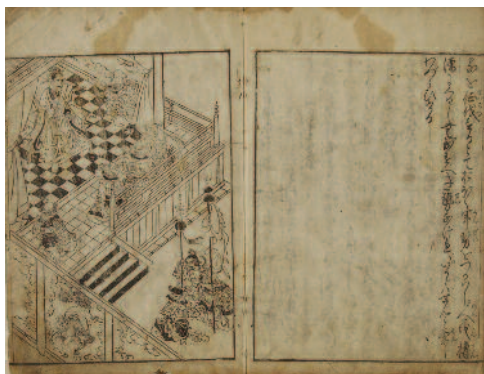
四 朝鮮征伐記 卷第一

堀正意輯録 九卷九冊ノ内

表裏紙欠 萬治二年刊
第三九丁迄 末尾欠丁

大二冊 三三、四〇〇
一〇・一二頁参照





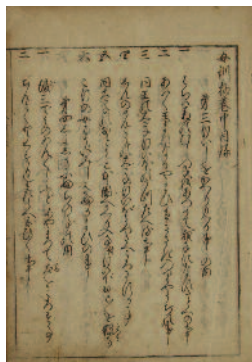
五 女訓抄 中下巻

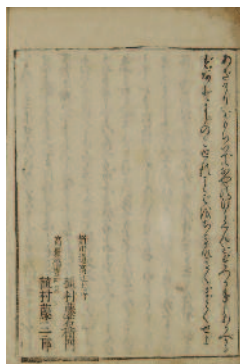
簽擦レ

無刊記

萬治頃板

大ニ冊 二一、六〇〇





六 日蓮上人註畫讚 零本

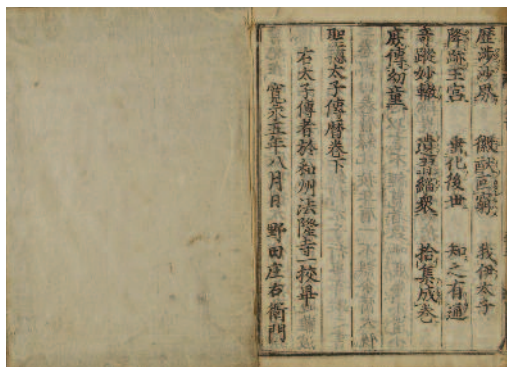
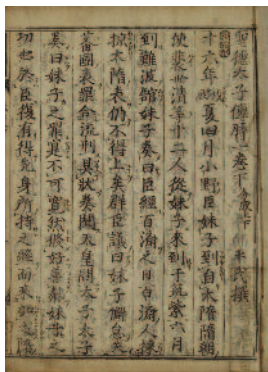
古活字版 寛永中刊 大一冊 二七、〇〇〇

― 卷第一ノ第四丁ヨリ第六丁表ト卷第四ノ第一丁ヨリ第九丁迄ヲ合本

六頁參照

終飢疫大水大風天變地无正至八月弥興牛馬
斃^{ノミ}巷^{ノミ}骸^{ノミ}骨^{ノミ}充路先驚大地震重^{ノミ}到駿州入太藏勘
諸經論指掌^{ノミ}知之^{ノミ}記立正安國論一卷正嘉元年始
乏文應元年庚申勘畢三十九歲同年七月十六日
辰刻屬鎌倉奉行宿谷左衛門入道^{法名呈ノミ}副元
帥平職頼對宿谷諫曰可諫欲治國安民失憚宗念
佛者若不納此諫者從此一門事起可被責他國焉
當時世歸關東入貴土風之上時頼領天下兵馬之
權故此論見相摸守爾來畫諫國主夜語弟子論肯
者天下無謗法之音豐樂不期而來國中有讀經之

七 聖德太子傳曆 卷下 策 平氏撰 寬永五年八月日刊 大二冊 一六、二〇〇
 | 野田庄右衛門板

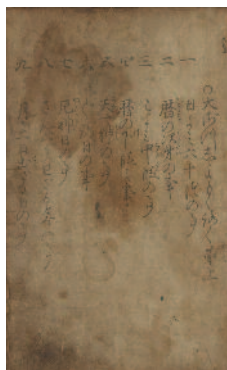


八 大ざつ志よ

古改装 奥書欠

寛永年間頃刊

大二冊 二七、〇〇〇



九 靈會日鑑

— 大心義統著

皇都四條通／森田庄左衛門

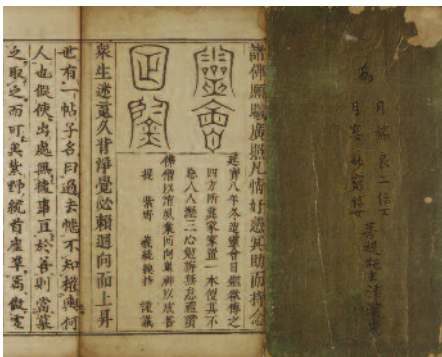
兩面摺

古筆補入

簽 貞享五年 初冬刊

特大一帖 一六二、〇〇〇

一二・二三頁參照

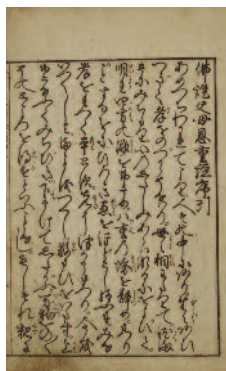
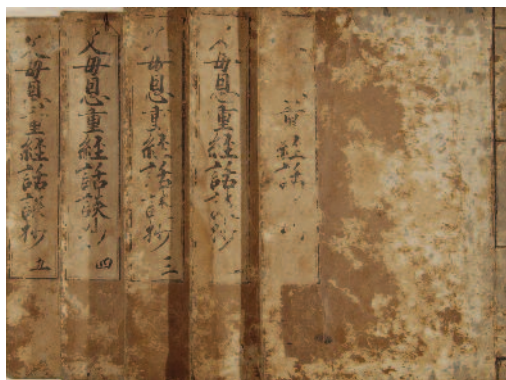


日刊		定光佛		日刊	
十一世垂仁天皇 興福玄助僧正 天台道隆興道法師 禮那陀庵建運僧正 靈芝元照大智雄師 三寶和勝道僧正 中性和親師僧正 永源山寂空圓覺師 淨慈院常照實勝僧正 小池坊良善和尚		大聖王憫彼賢眼開解脫門而謂福 智二嚴是也如有人於此其父母師 長親知之類隨室炭也教恩拱手而 視之乎急須備福智之白業薦先也 之冥社又其忌日者君子終身之喪 也以名系日則所以有過去霜落之 穀也資 天和二年齡 兼壬戌春正月 智積住持比丘僧正泊如運敬啟書		尾張國不破郡 本地藥師如來 光宅	

[illegible]

神宗皇帝御製	唯識經疏	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像
神宗皇帝御製	唯識經疏	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像	本邦三寶佛聖像

一〇 佛説父母恩重經話談抄 五卷 簽 元禄二年九月刊 大五冊 二二九、六〇〇
 ― 淺井了意著 華洛書林／田中庄兵衛壽梓



二

逸題佛書

簽擦レ

江戸日本橋／小川彦九郎

寶曆頃

小二冊

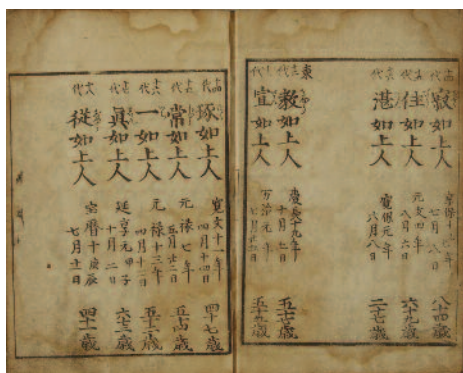
二七、〇〇〇

―卷頭

「本願寺御代之次第」

卷末

「太子七高僧御忌日」



三

寶物集

上中下卷

書キ簽

平康賴著

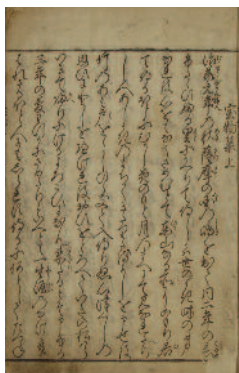
寛永二〇年刊

大三冊 二七、〇〇〇

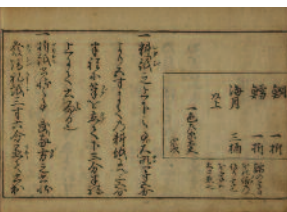
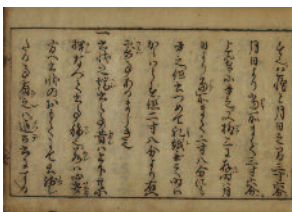
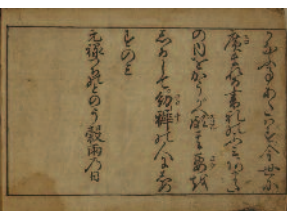
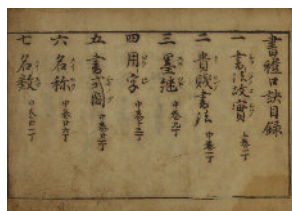
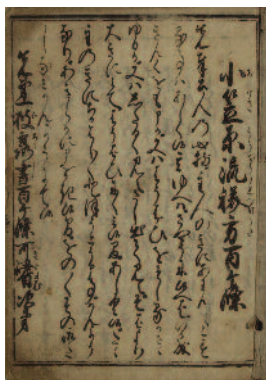
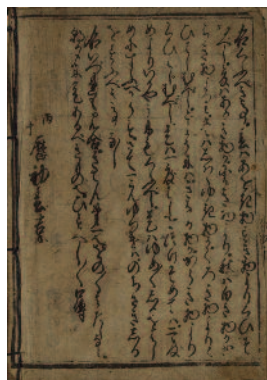
一 竹本佐左衛門開板

京師書林／丁子屋平兵衛版ノ後摺

薄染ミ



一三 小笠原流騷方百ヶ條 表裏紙欠 丙午曆初春吉日 中一冊 一〇、八〇〇
 一四 書禮口訣 上中下卷元合本 籤欠 元禄一二年序 小横二冊 二七、〇〇〇
 | 貝原益軒著 下卷末尾數丁落丁



一五 鹿きき
― 巻首二丁欠

古改装

吉備鷄巢軒

享保一六年

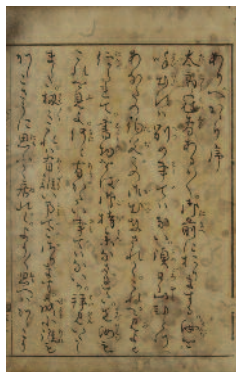
(國書)

半二冊

一〇、八〇〇

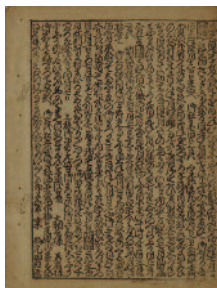
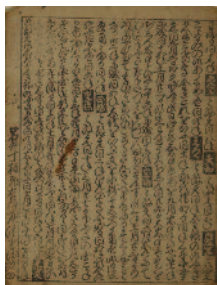


一六 有べかゝり 乾巻 簽 染ミ 鎌田一窓 文化頃刊 半二冊 一〇、八〇〇



一七 江之島土産 第二編上巻 改裝
 一 零本 傷ミ欠丁 殘卷一九丁
 十返舎一九 文化七 中二冊 一〇、八〇〇





- | | | | | | | | |
|----|--------|----------|-------|-------|------|--------|--------|
| 一八 | 太閤昇進略 | 前後編元合 | 共表紙六丁 | 江戸末期刊 | 半一册 | 一〇、八〇〇 | |
| 一九 | 古今年代記 | 上下合 | 摺外題 | 共表紙三丁 | 元文頃刊 | 半一册 | 一六、二〇〇 |
| 二〇 | 岩井丁板元 | □□屋清兵衛政正 | 共表紙三丁 | 摺外題 | 寛保頃刊 | 半一册 | 一六、二〇〇 |
| 二〇 | 興古今年代記 | 板元田鶴屋 | | | | | |

二

月岡丹下逸題繪本 中・下卷合本

傷ミ

明和三年刊

大一冊

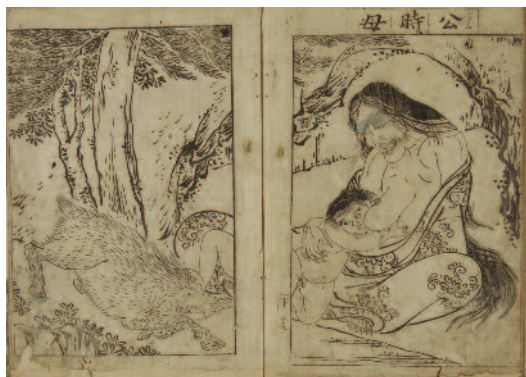
三、四〇〇

攝城畫生／露仁齋月岡丹下昌信

浪華劔剛／藤江四郎兵衛

書林／須原屋茂兵衛・大野木市兵衛





櫛城畫生 露仁齊月國丹吉昌信
浪華削劇 藤江四郎兵衛

明和三歲丙戌孟秋
明和三歲

書林

須原茂兵衛
大野木市兵衛

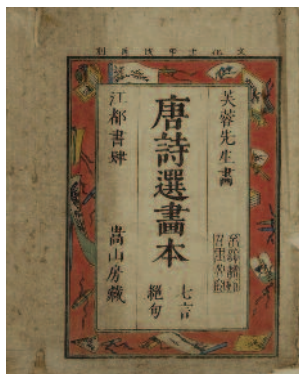
江戸日本橋町金丁目
大坂心齋橋筋前堂三丁目

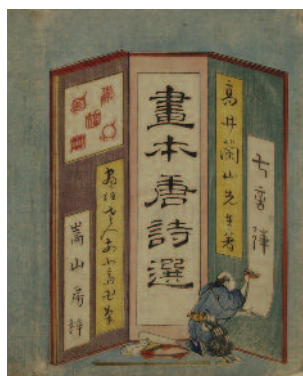


二三 畫本唐詩選外袋 全七編揃

橘石峯・鈴木芙蓉・高田圓乘・北尾紅翠齋・小松原翠溪・葛飾北齋画

三二・三三頁参照





二三

一勇齋漫画

一勇齋國芳戲作筆

簽 花笠文京序

少虫損 末尾染ミ

安政二年序刊

中二冊 二一、六〇〇



二五

韻鏡

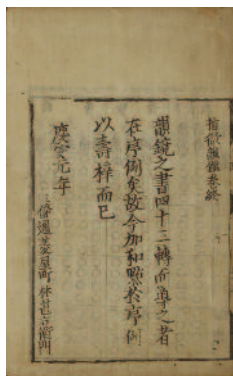
―三條通菱屋町／林甚右衛門板

栗皮表紙原裝題簽欠

慶安元年刊

中一冊

七五、六〇〇



二六 司馬江漢寫 銀眼鯛・金時鯛圖

一幅 一、六二〇、〇〇〇

—寛政丙辰（八年）夏六月 落款「司馬」「峻」
紙本 二二・五×三七・〇 軸長一〇八 糎

歐文サイン「Kookan」

二八・二九頁參照







寛政丙辰夏六月



Lookang

金時鯛

狀似鯛 色紅光如金魚
鬚鰓^{ヒレ}鰓^{エラ}トケ^イテ不可^イ辛^イ近^イ
肉脆白味美



二七

古戯画粉本

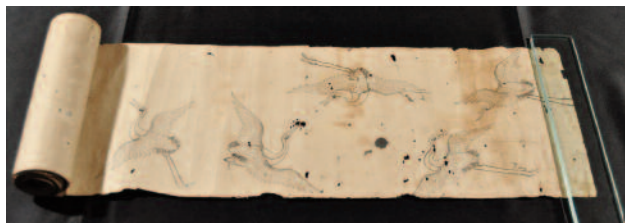
紙高／一六糎

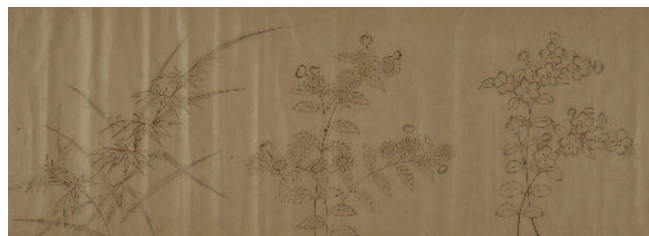
長サ五〇〇糎

鳥ノ子紙

江戸中期頃寫

一枚 三、四〇〇





二八

東都不忍辨財天已待之圖

和泉屋市兵衛板

一枚

三四、〇〇〇

一喜多川歌麿画

二四・五×三八・二糎

三〇・三一頁参照



二九 東都金龍山淺草寺圖

一枚 五四、〇〇〇

― 葵岡北溪寫 泉屋市兵衛／桑村半藏 彫工萩原浪次郎刀 文政三年刊
三八・五×六〇・五糎 上層ノ題名ノアル空ノ部分ヲ五糎ホド切除



三〇

明治元年（上野／根岸）
一梅齋／守川周重筆

明治二年（箱館／国分寺）
板元／小川半助

明治三年（箱根）
三枚 五四、〇〇〇



三
 横濱浮世繪 越長版 光親筆 大判錦繪
 | 「千字文／天地玄黃宇宙洪荒」

一枚 三三、四〇〇



三 千家茶湯會席

寫本六三丁

江戸中期頃寫

小一冊

五四〇、〇〇〇

― 千利休ノ天正一五年八月一七日ヨリ天正一六年正月廿四日ニ至ル茶會席ノ記録。文祿二年卜慶長一七年十一月八日ノ記録アリ。一三、一七頁參照

茶師堂天目

石のてら

象牙茶抄

尺八の茶目

石のてら

掛物茶目茶目茶目

十月冒朔

一 躰

二 鯉さし味汁中ち

さし

茶目茶目茶目
茶目茶目茶目
茶目茶目茶目

金教法市

留田左近

林左京

筆次

四方金

信樂の指

えとさく山後

茶師堂天目 イマハ茶

茶入・展張

宗甫棚

イ朝
松久

蜂次郎の侍
増田右衛門尉
中村式部少輔

ワカサキ け たき入

くろめ・食

しろ 鮎を煮す

きし

うめやね
リヤ
あし竹

極目不言胡
柔心為友

言山南坊人

何とと金

鯛焼物けきし

曲物水物

食

肩衝也多益

さんせし

尺八花入

ううう物

折外もまじ

りうまうい

春浦墨詠

茶碗草書山水

くくく物

三月八日

不向意中時已

73 小卷

謝永珍

黑步碗

本堂彙編

長百歲

防之至也

油色常佳一人

鯛汁

鮎大郎のたれ

うき

今卷記

卷之四

慶長七年十一月廿二日 江戸 古田織部殿

所成

所服衣、是打

所付、是打

具焼

所食

日

衣、是打

衣、是打

所の物

脚所迫テ

素羅

あゝなるす
ふゝる

脚

雲の形
あゝなる

位
まゝ興へる

一床と連

ゆきう間

無準自畫自讃

一床と船

梅と
白玉橋 入て

一棚と三重

正い言茶入
從代茶素丹の紙子

一 七、八の音合 後音合
一 伊賀焼の音合 音合
一 めんつ
一 彫戸黒茶碗

自伝の問

一 茶碗の自伝
一 焼の音合の音合
一 袋棚の音合 陰家
一 茶具の音合 新家 彫戸天目

一上棚二柄杓

一系碗、系筴系杓系巾入丁

一棚下三張戸新及丸臺 但今織代袋

上振冲藏縁法幸甚多中々外刻冲成
五利三門序在

御相律

玄嗣
石門玄馬

三 千家茶湯會席（表紙）



三三

大坂冬御陣覺書 初卷・終卷

— 寫本四一・六五丁 ヤヤ虫多シ

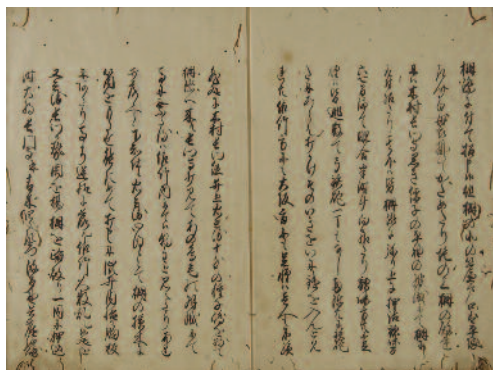


江戸中期頃寫

特大二冊 八六、四〇〇

初卷ノ表紙ハ替表紙

一八・一九頁參照

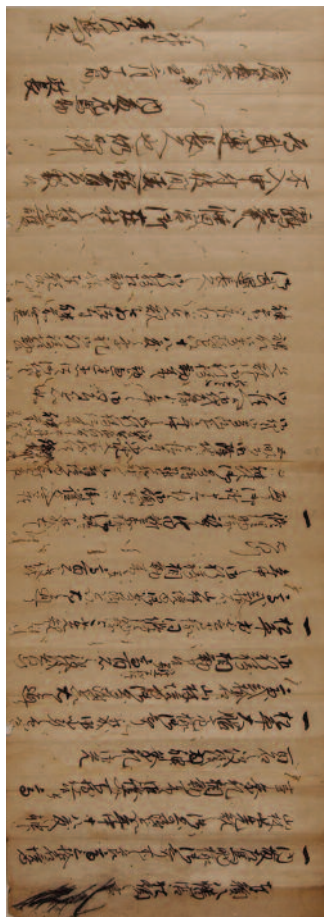


三四 奉額八幡宮御領之事

一通 五四、〇〇〇

―内藤左馬助／政長／慶長六年辛丑三月一五日／神主／彦左衛門

内藤政長―戰國時代カウ江戸時代前期ニカケテノ大名。上総佐貫藩主ヲ
經テ陸奥磐城平藩主。延岡藩内藤家宗家初代。豊臣秀吉ニ仕エル。



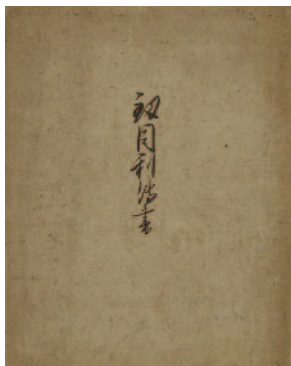
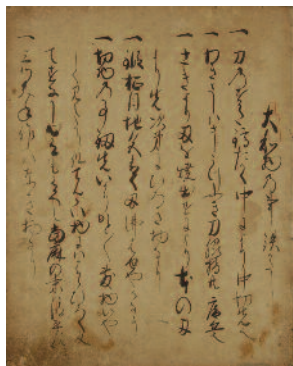
三五 劔目利傳書

粘葉裝

廿二丁

室町末期寫

大一帖 二七〇、〇〇〇



彌倉おこまきやうやく

一 刀入者大切先くそきり

一 暇持のういりくつひくも心又地近物ある

陰のほろじくうしりく地こまれい並ぬ

一 又とせり焼く一 ぬりせきり又度き

如く地が彌倉わぬわぬ又うしぬの姿依

和わるとく定う地いり又とあこは

焼くぬち板め地あまやまちし佛し

一 りぬのき梅りし細先くもかひきくお

くち切くちたわあていりりり

一 白彌倉の櫃の中よりとりぬすの彌倉の

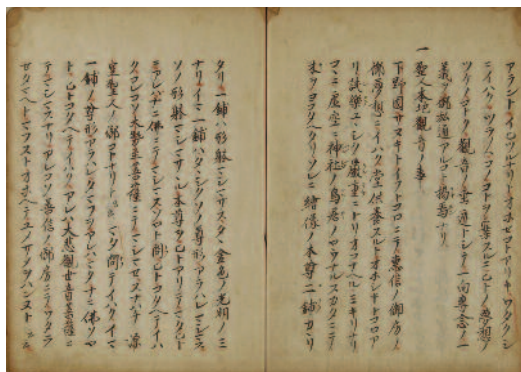
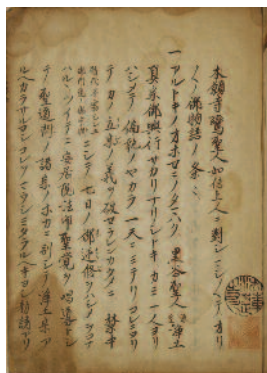




三六 信濃國善光寺東町法蓮寺口傳鈔
 一上中下卷合 寫本四四丁

正徳五年五月寫

大 二冊 五四、〇〇〇



三七

大坪流馬術秘書

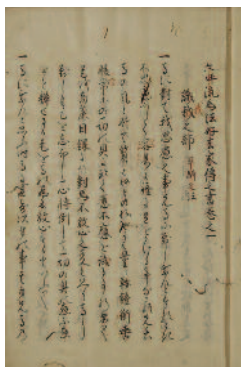
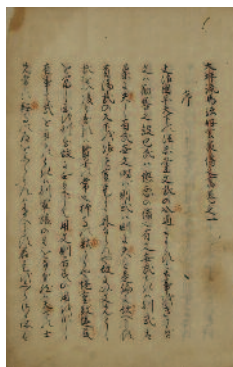
三七・三五丁

江戸後期寫

大ニ冊

五四、〇〇〇

— 永祿三年夷則齋藤安藝守好玄自序



三八

公裁密寶錄
一六三箇条

天

寫本五四丁

文政三年七月寫

大二冊

三一、四〇〇

